

ガバナー就任に際して

ガバナー 井上 暎夫

ロータリーが生まれ、やがて100年を迎えます。ポールハリスが最初に始めた時の原則は相互扶助であります。その後、公衆便所を寄贈した話は有名ですが、これが最初の社会奉仕となりました。しかしこの事がやがて、親睦派と奉仕派の対立を生みます。また相互扶助即ち物質的な利益から精神的な職業倫理の必要性が議論されるようになりました。職業奉仕の考え方から11ヶ条の道德律採択がされました。しかしここでまた行動派と理論派の大論争を迎えます。あまりにも有名な決議23-34が採択されて論争に終止符が打たれます。創立から18年目、ロータリーの基本理念が定まり、ロータリーのバックボーンとなりました。時代時代に対応しながら、いろいろな困難を乗り越え、しかし確実にロータリーは発展を続けてきました。



しかし、やがて迎える100周年を目前にして私たちは大きな危機を招来しました。ここ2～3年で実に全メンバーの35%にあたる40万人の会員を失いました。今世界のロータリークラブの16%が会員20名以下のクラブであります。昨年地区大会で私は計らずも次のような問題提起を致しました。『あまりにも増強を叫ぶあまりロータリーは最も大切な物を失いつつあるのではないか、ロータリーがロータリーでなくなるのではないか。21世紀のロータリー活動の最優先課題は世界規模の拡大強化か、地域に根ざしたクラブの自主性を再確認することか』が要旨でした。

アナハイムに行きまして、次年度は時計の振り子のように原点に戻り、かつての基本理念に根ざしたロータリーになる予感を感じて帰ってきました。一つが1994～95年の会長でしたビル・ハントレー氏の演説です。「私たちはロータリーの理想の守護者である。威厳、品位、人間性と慎みという時代を超えた原則を、先頭にたって再確認しなければならない。職業奉仕こそその他のあらゆる奉仕団体と一線を画す原則である。もう一つの原則は友情の力である。時代を超えた原則を無視してはロータリーの価値観はなくなり、ロータリーの存在はなくなる。」と訴えました。もう一つは勿論2002年～03年のRI会長をつとめられるピチャイ・ラタクル会長（当時エレクト）の方針です。2002年～2003年国際ロータリーのテーマは

Sow the seeds of Love 慈愛の種を播きましょう

ロータリーにおける最善の親睦、奉仕は常に愛の真心からでたものです。まさに慈愛こそ、すべてロータリーの仕事を背後から支えて、これを最善のものにする原動力です。

ロータリーはクラブが核心です。まず最初に、自分のクラブに慈愛の種を播きましょう。そして自分の職場に、さらに自分の地域社会に、そして最後に、世界に播きましょう。その播いた種が、また子孫を残して拡大する事を夢見ましょう。慈愛の種を播くことは奉仕の機会を見つけることであります。

これがテーマに対するメッセージです。そして、包容力溢れるお人柄を感じさせる、慎み深く諄々と諭すようなスピーチを聞きました。

ロータリーに不満を持つ人がいます。しかしロータリーはその様な人によって支えられているのではありません。完全を求めませんが、各自がそれぞれ最善を尽くす事を期待しております。

ロータリアンとして、ロータリーの仕事をするのは、クラブとその会員であって、地区ガバナーでも、RIの理事でも会長でもありません。私たちのクラブこそがロータリーの核心です。クラブを充実させるために、私達はトップダウンではなく、草の根レベルから立ち上がって働きます。ボトムアップとは私があなたに守るべき新たな規則や手続き、達成すべき目標水準を与えるのではありません。ボトムアップで働くようお願いし、私もそうします。

これがその時のスピーチの一節であります。ロータリーの基本に立ち返り、ロータリーの核心はクラブにあり、RIはクラブの連合体である事を再認識し、トップダウンでなくボトムアップ、草の根レベルから立ち上がってロータリーの活動が始まる事をはっきり明言されました。そして、強調事項として、充実したクラブの管理、会員増強および退会防止、識字率の向上、職業奉仕の4項目が、新しくプログラムを作る必要はなく、そのような事に力を注ぐ代わりに今あるプログラムの実行に掛かりましょうとの趣旨で掲げられました。

私は、ピチャイ・ラタクルRI会長のロータリーを簡素にというメッセージをうけ次のような方針を提案します。

会員の皆さんに、

多くの知り合いを作ってください。

RCの会合を通じ、多くのロータリアンに会って下さい。すばらしいロータリアンに出会えます。

感動を体験ください。

奉仕は心と心のつながりをつくります。奉仕の機会をみつけ行動してください。

クラブの皆さんに、

特色あるクラブを目指してください。

先ず、自分のクラブの奉仕対象地域を明確にして下さい。同じ地域に複数のクラブがあります。横並びでよいでしょうか。効率的なクラブ運営も奉仕活動も助け合えないでしょうか。

事業、専門職務の道徳的水準を高めるためのプログラムを用意ください。

ロータリーは職業人の集まりです。高い職業倫理はロータリーの独自性を保ちます。

地区の皆さんに、

クラブが十分に活動できるように力を貸してください。

地区組織をスリム化しました。その上予算も減りました。地区委員会の皆さんには大変な努力を強いております。地区の実情と地区本来の役割にご理解ください。

具体的な諸問題につきましては

増強について

地区から増強を前面に打ち出しての目標設定は致しません。クラブは各自で目標を立ててください。現在の会員数を維持する、あるいは年間純増1名のクラブがあるかも知れません。これとて立派な目標です。増強の基本はまず退会防止であり、このことをクリアしないと純増は達成できません。ロー

タリアンにとってクラブは一番大切な存在です。クラブが今どのような状況にあるのかクラブが一番判っていることです。それぞれの事情に応じて目標を決めてください。ビル・ハントレーは基本原則に帰り、時代を超えた価値観が戻れば増強は達成できると語りました。彼の基本原則は奉仕と友情の力です。時代を超えた原則の推進は回り道ですが増強への道ではないかと考えます。

ポリオの募金について

ロータリー財団は今年度の最優先事業にポリオ撲滅の完結を掲げました。ポリオはこのプログラムが始まる以前1985年には127カ国35万件の発症事例がありましたが、2001年には10カ国441件と激減しております。しかし、今なお現存している10カ国はいずれも紛争国でワクチンより投与のために莫大な資金を必要とする段階を迎えております。ロータリーは創立100周年を祝う世界の人々への贈り物にポリオの完結を宣言しております。この事業の完結のための総事業費は4億ドル、その20%をロータリーが約束をしました。8千万ドルを如何に集めるかが大きな課題でロータリー財団はこの事業の完結を優先活動としました。WHOやアメリカをはじめとする各国政府、重要パートナーである世界銀行、ビルゲイツ財団、国連財団ともに約束を果たす責務があります。地区はこの責務に対して努力をいたします。しかし、最初から一人幾らの目標は設定いたしません。ニコニコ箱を充てる、親睦会の登録料を浮かせる、安価な例会の食事などそれぞれのクラブでお考え下さい。ロータリーの約束をはたすため募金のアイデアを出して下さい。

識字率向上について

私たちの地区内では識字率が問題となる現実はありません。従いまして、取り組むべき対象は海外であり具体的には世界社会奉仕活動となります。これから取り組まれるクラブにつきましても検討の対象にこの問題を加えてください。単独で不可能なら近隣クラブを巻き込んで下さい。ガバナー補佐が力になって頂けます。また資金につきましても地区に相談ください。沢山ではありませんが資金を用意いたしました。

続きまして地区からのお願いです。

地区の改革

本年度より私は地区組織を、9部門27委員会から7部門16委員会と2会議にして地区組織のスリム化を計りました。また地区ガバナー指名委員会のメンバーがパストガバナー全員だったものをRIの推奨である直前から遡り5人のパストガバナーにして頂くようにしました。また、ガバナー事務所の移転をして地区資金の削減に努めます。地区で初めてのリーダーシップ・プラン導入により8人のガバナー補佐の任命を終え、補佐によるクラブ協議会の出席、そして合同で開催されるクラブ例会への公式訪問とあたらしいシステムでの始動となります。今までと異なるいろいろな変化が起こります。地区内ロータリアンのご協力をお願いいたします。

地区財政

会員の減少により地区の予算規模を13年前の水準に戻さなければなりません。そのため、先ほどお話ししました地区の改革に手を付けました。しかし、もう一つ深刻な問題があります。予算では前年度を終えた段階で地区資金は97万円しかない状態です。今、地区では青少年交換、GSE、RYLA、ニコニコキャンプ、などの事業をしております。万が一の事態に全く対応が出来ない状況です。このため今年に限り1人1,000円の資金の拠出をお願いし地区基金会計の創設を致しました。青少年交換ファンドより200万円組入れました。会員の皆さまのご理解をお願い致します。

教育問題

日本ガバナー会では、国内の全クラブに対し次のような呼びかけをすることにしました。教育改革国民会議は「人間性豊かな日本人を育成する」ことを提案し、例えば

- ・教育の原点は家庭にあることを自覚する
- ・学校は道徳を教える事をためらわない
- ・奉仕活動を全員が行うようにする

などの実施を希望しています。ロータリーは各々の地域社会でこのことに積極的に関わっていこうと。その様な決意を示す事によって教育問題の起爆剤になりたいと願うからです。当地区では特別委員会を設けこの問題に取り組んだ経緯があります。私は文部科学省が『心のせんせい』配置事業に取り組むことに呼応して、地元の学校にロータリアンが先生として登録することはどうかと考えております。クラブの職業奉仕と青少年奉仕が共同で取り組める問題ではと思います。日本ガバナー会での協議結果を報告いたしますのでその時点でのクラブの検討をお願い致します。

RI 理事、ロータリー・ゾーン研究会、国際大会

当地区の菅生パスト・ガバナーが理事として就任され、2年の任期でお務めを頂きます。日本のロータリーのため、そしてわが2660地区のためのご活躍を祈念し地区あげてのご支援をお願い申し上げます。そして、11月リーガ・ロイヤルホテルにてロータリー・ゾーン研究会がRI会長をお迎えして行われます。吉川パスト・ガバナーを実行委員長に準備が行われます。地区としましても可能な限りの協力をいたしますのでご理解をお願いします。もう一つは地区内で行われます2004年国際大会の国内実行委員会委員長に近藤パスト・ガバナーが就任され、開催直前年度としてその準備が本格化します。オンソー国際大会の任務を、新しく設けました地区国際奉仕委員会にお願ひし、ブリスベンへの参加により関西大会（英文OSAKA）を側面から支援していきたいと思ひます。どうか、2003年の国際大会への積極的な参加をクラブ単位で検討ください。

本年度よりリーダーシッププランの導入が始まります。合同例会やガバナー補佐によるクラブ協議会出席を踏まえての対応など初めてのガバナーとしての戸惑いもあります。ここに列挙いたしました以外にも種々の問題を抱えて、1年間ガバナーとしての責務を果たさねばならない重圧を痛いほど感じております。地区の為になるならばとひたすら考えての決断とは云え、歴代ガバナーの皆さまと比べて全ての面での劣等は疑うすべもありません。この上はご指導ご鞭撻を願うのは勿論ではありますが自らを励まし任務に当たる決意であります。どうかあたたかい寛容の精神にてご支援を賜りますよう地区内の皆さまにお願ひ申し上げます。

最後になりましたが、エレクト就任以来絶えず温かい友情にて支えて頂きました千里ロータリークラブの皆さまに心よりの感謝を申し上げ引き続き任務完結まで倍旧のご支援をお願い申し上げます。



ガバナー 井上 暎夫

プロフィール

第2660地区ガバナー

井上 暎夫

生年月日 1937年（昭和12年）2月3日

住所 〒666-0111

川西市大和東1丁目100番地6

最終学歴 関西大学経済学部卒業

職歴 1960年 古川公認会計士事務所入所

1962年 税理士登録

1967年 税理士井上暎夫事務所開設

その他 関西大学特別奨学生

1975年 社団法人吹田青年会議所理事長

1976年 吹田市吹田まつり実行委員長

1977年 社団法人日本青年会議所財政特別委員長

ロータリー歴 1973年6月 吹田北（現千里）RC入会チャーターメンバー

1975～76年 幹事

1985～86年 幹事

1993～94年 会長

1994～95年 ライラ実行委員長

1997～98年 地区代表幹事

1998～99年 4地区連合地区大会財務委員長

2000～01年 地区ガバナー補佐、地区規定・情報委員長

ポール・ハリス・フェロー 米山功労者

職業分類 税理士

